

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（柏崎刈羽6，7号機（382）」

2. 日時：平成28年7月8日 15時30分～16時35分

3. 場所：原子力規制庁 13階 D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

江崎安全審査官、岡本安全審査官、岸野安全審査官、櫻井安全審査官、
照井安全審査官、中原安全審査官、村上安全審査官、安田安全審査官、
大塚係員、糸賀原子力規制専門員

事業者：

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 建築耐震グループ
マネージャー 他15名

電源開発株式会社：原子力建築室 建築技術タスク 他1名

東北電力株式会社：火力原子力本部 原子力部原子力設備担当 他1名

日本原子力発電株式会社：発電管理室 設備耐震グループ副長 他1名

中部電力株式会社：原子力本部原子力部 設備設計グループ 課長
他2名

北陸電力株式会社：土木部 耐震建築技術チーム担当 他1名

中国電力株式会社：電源事業本部 マネージャー（耐震建築）他2名

5. 要旨

（1）東京電力ホールディングス株式会社から、柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉の設置許可基準規則等への適合性のうち「4条 地震による損傷の防止」について説明があった。原子力規制庁から以下の点について指摘を行った。

<側面回転ばねについて>

- NOVAKの側面回転ばねを適用できる条件、ばねを想定する範囲等について、既工認の説明を踏まえて詳細に説明すること。
- 原子炉建屋地下外壁部の防水施工状況に示されている材料の仕様を示し、説明すること。
- 地盤摩擦試験で使用した材料仕様が実機と同等であることを説明すること。また、試験のスケージングの考え方について説明すること。
- 試験結果のばらつきを考慮して下限値を採用する場合の考え方について、保守性の観点から説明すること。
- 試験全般について、試験方法の選定経緯とその妥当性、試験結果に対す

る考察を行い説明すること。

- 2次元FEMモデルを採用することの妥当性を説明すること。
- せん断ばね及び軸方向ばねについて、ジョイント要素の種別や設定内容の詳細について説明すること。
- 埋戻土層のモデル化の考え方、ベースマットと基礎地盤の間のモデル化、解析コード等についても説明すること。
- 2次元FEMモデルの応答結果と埋込みSRモデルの応答結果との比較検討について、具体的な実施事項を側面回転ばねの妥当性検討における位置づけも含めて説明すること。

(2) 東京電力ホールディングス株式会社より、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉側面回転ばねの妥当性検討の方針について
- ・ 柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉地震による損傷の防止について(補足説明資料)(平成28年7月4日提出資料と同じ)